

香川の次世代を考える 地域円卓会議

11月19日（土）14：00～16：30

参加費
無料

主催 特定非営利活動法人わがこと

後援 高松市、香川県、高松市教育委員会、香川県教育委員会

協力 一般社団法人全国コミュニティ財団協会、公益財団法人みらいファンド沖縄

この事業は、2021年度休眠預金等活用事業「地域の資金循環とそれを担う組織・若手支援者を生み出す人材育成事業」に採択されています。



【実施報告書】

香川の次世代を考える地域円卓会議

「若い世代（次世代、U29）が育つ地域になるためには、これから何が必要か？」

日時 | 2022年11月19日（土）14:00～16:30（13:30 受付）

場所 | ふらっと高松（高松市仏生山町甲 218-1）

主催 | 特定非営利活動法人わがこと

協力 | 一般社団法人全国コミュニティ財団協会、公益財団法人みらいファンド沖縄

後援 | 高松市、香川県、高松市教育委員会、香川県教育委員会

【報告】香川の次世代を考える地域円卓会議

「若い世代（次世代、U29）が育つ地域になるためには、これから何が必要か？」



日 時 | 2022年11月19日（土）14:00～16:30（13:30 受付）

場 所 | ふらっと高松（高松市仏生山町甲 218-1）

着席者数 | 7名（論点提供者、司会、記録者含む）

来場者数 | 34名（行政、企業、自治会等地域組織、NPO・市民団体等、教育機関、自営業、その他）

主 催 | 特定非営利活動法人わがこと

協 力 | 一般社団法人全国コミュニティ財団協会、公益財団法人みらいファンド沖縄

後 援 | 高松市、香川県、高松市教育委員会、香川県教育委員会

* 情報保障のため、同時手話通訳を手配しました。

論点提供 大美光代（特定非営利活動法人わがこと 代表理事）

「地域づくりは人づくり」と言われ、地域の未来を考えると、次の世代の育成やバトンを渡す仕組みや風土を育むことです。しかし、香川県では多くの若者が進学を機に県外に移り住みます。そんな彼らに「地元で暮らす」という選択肢はどれくらい身近にあるのでしょうか。若者の客観的な現状を共有し、「人が育つ地域」になるために、「誰に何が必要か」を一緒に考えます。

着席者



岡下 健一郎さん



英 誠一朗さん



河田 祥司さん



田中 博子さん



真鍋 有紀子さん

司会・記録

湯川致光（特定非営利活動法人わがこと理事、株式会社HYAKUSHO代表取締役）

■セッション①では、論点提供及び、着席者を中心に視点や事例の共有をおこないました。

<着席者>

岡下健一郎さん（新番丁校区子ども会育成連絡協議会会長、公益財団法人かがわ産業支援財団）

英 誠一朗さん（英明高等学校 PTA 会長、株式会社四国新聞社）

河田 祥司さん（高松市総合教育センター）

田中 博子さん（特定非営利活動法人ゆうゆうクラブ代表理事）

眞鍋有紀子さん（富士建設株式会社代表取締役、准認定ファンドレイザー）

事実の共有

- ・大学進学者収容率は46%（四国のなかで最低）
- ・将来の自分を想像した時に、香川で暮らしていきたいという高校生は多くいる
- ・「地域活動」「ボランティア等の社会貢献活動」に興味がある高校生も多い
- ・PTA 役員の成り手が少ない
- ・企業の「大義」に興味を持っている
- ・就職活動が「就活ビジネス」化している。中小企業には厳しい。
- ・部活動や趣味を通じて地域の大人と関わる子どももいる

視点の共有

- ・「参加」ではなく「参画」したがつている子もいる
- ・放課後の時間をもっと魅力的な時間にできないか。体験活動等
- ・子どもがどうこう言う前に、大人が覚悟を持って臨んでいるのか
- ・何か新しくチャレンジしようという人たちを、妬まずに応援する風土はあるのか
- ・教育委員会は、本当に子どものためになることをしようとしているのか

事例の共有

- ・何もしない合宿。子どもに何かしてあげようということをやめる。準備の負担も軽減
- ・JR 鬼無駅のトイレを考えるワークショップを開催
- ・地域の食堂。子どもも高齢者も集まってくる。予定数を超えて集まってくる
- ・学校ではないコミュニティが地域にはまだある

評価の共有

- ・デジタルの世界には「地域」の概念が薄い

■セッション②では、会場内の来場者とともに、「次世代が育つ地域になるために、これから誰に何が必要か」を対話しました。以下は、来場者が書き留めたメモを原文そのままに書き起こしたものです。

事実の共有

- ・世代間交流の中心は高齢者世代
- ・世代交代が進んでいない。自分が子どもの時に元気だったおじちゃんが、まだ地域の中心にいる
- ・自治会未加入率が上がっている
- ・聞こえない人のための通常の学校のシステムがない

視点の共有

- ・子どもだけでなく、親が育つことが必要
- ・経験を積み重ねる機会があれば良いのでは
- ・大人、子ども関係なく集まれる場が必要
- ・自分がやりたいことができるような教育（環境）が必要
- ・～のためにだけでなく、まず自分がしたいことをしっかりする
- ・地域を好きになってもらう
- ・若いうちに地元での働き方をもっと知りたい、教えた
- ・新しい価値観をもっと吸収する、受け入れる
- ・障がいのある人も子どもイキイキと生きる社会
- ・地方を元気に！
- ・新しいことに若い世代がチャレンジできるような仕組みがあればいい
- ・大切なことは「寛容」と「多様性」
- ・子どもを意志の持てる人にする
- ・「学校」「地域」「家」
- ・自分で考えを伝えたり、選んだりできるように
- ・選択できるようにするには、周りの「見守り」が不可欠
- ・自分との違いを受け入れてお互いを理解しようとする姿勢が大事
- ・自己肯定感の差
- ・社会全体で許容すること
- ・参画には具体的な「旗」（役割）が大事
- ・役割を作る。既存の「長」には定年制も必要→活躍の場を新しく作ることも大事
- ・若者の場を作る
- ・生まれつき身体障害者。助けたい人と助けが欲しい人の mismatch を無くしたい
- ・大人がまずは面白いことをする。子どもに見せる。変な大人でもいい。
- ・子どもを縛っているのは大人の方
- ・大人が責任逃れをしてはいけない。理想像を見せる

事例の共有

- ・勤めている会社には、外国人が多く、各国の旗が入り口に掲げられている。見学に来たいという学校が多い。
- ・教科書以外のことを教えるには、外部講師が来ないことには始まらない
- ・カリフォルニアロール→最初にお寿司だと言わなかったから広まった。チャレンジ。

評価の共有

- ・大人も子どもも目標を持つこと
- ・大人が若者にもっとできることはあるか考える
- ・40代の親世代はもっと動けるはず！
- ・上の世代にも下の世代にも理解してもらいたい
- ・デジタルの中でのコミュニケーションが進んでいる。でも、そこには「地域」の概念が薄い
- ・大人の態度。子どもに対して都合だけで言動していると、子どもは主体性が持てない
- ・お互いが見知らない→防犯につながっていない、安全でない
- ・生活にも経済的にも余裕がないことが変わらない要因の一つになっている
- ・子供のためにいいことで自己満足していないか

■セッション③では、会場のメモを参考に、再度着席者を中心に対話を進めました。

今回の円卓会議では、「何が必要か」という具体的なアクションや施策は多く出てきませんでした。次世代が育つための前提として、以下のようなキーワードが多くあがり、会場全体で共有することができました。また、今回の場に、「若者世代が少ない」ことへの言及もあり、次回以降の開催の課題となりました。

全体を通じてのキーワード

- ・「寛容」「受容」「多様」
- ・子どもや若い世代の育成ももちろん大事だが、大人はどうか
- ・大人が覚悟を持って色んなことに向き合っているか
- ・チャレンジする人を後押しできているか
- ・世代交代の重要性と、思ったように進まないことへのジレンマ
- ・大人の価値観を押し付けるのではなく、選択肢を増やす

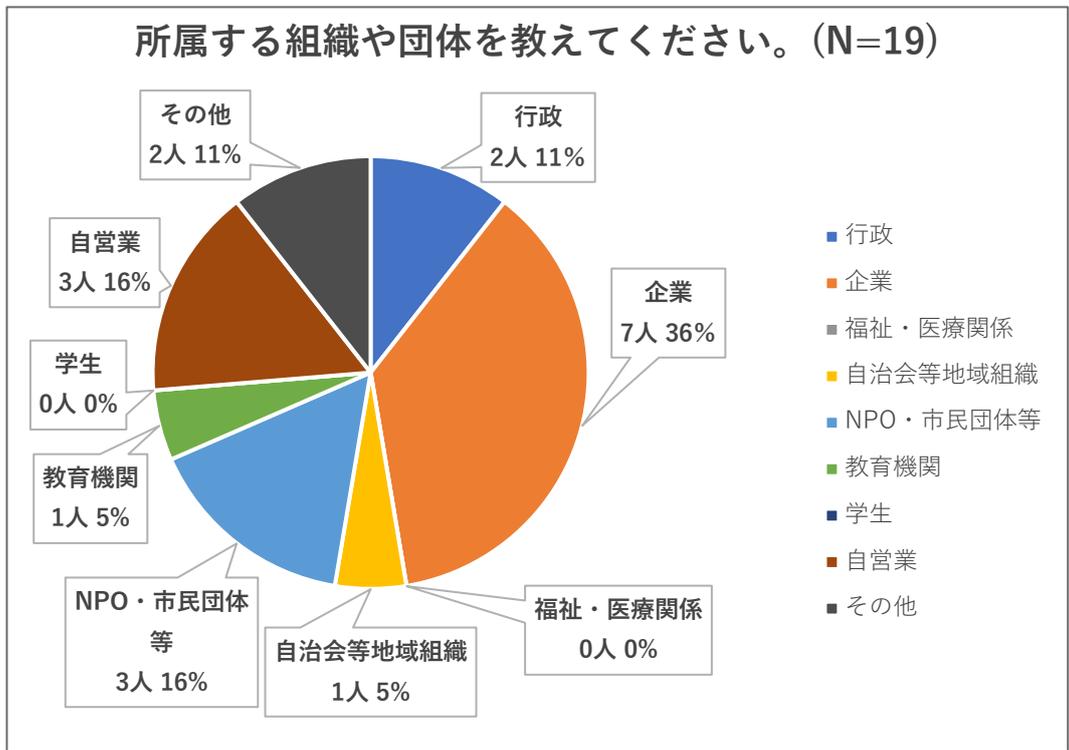
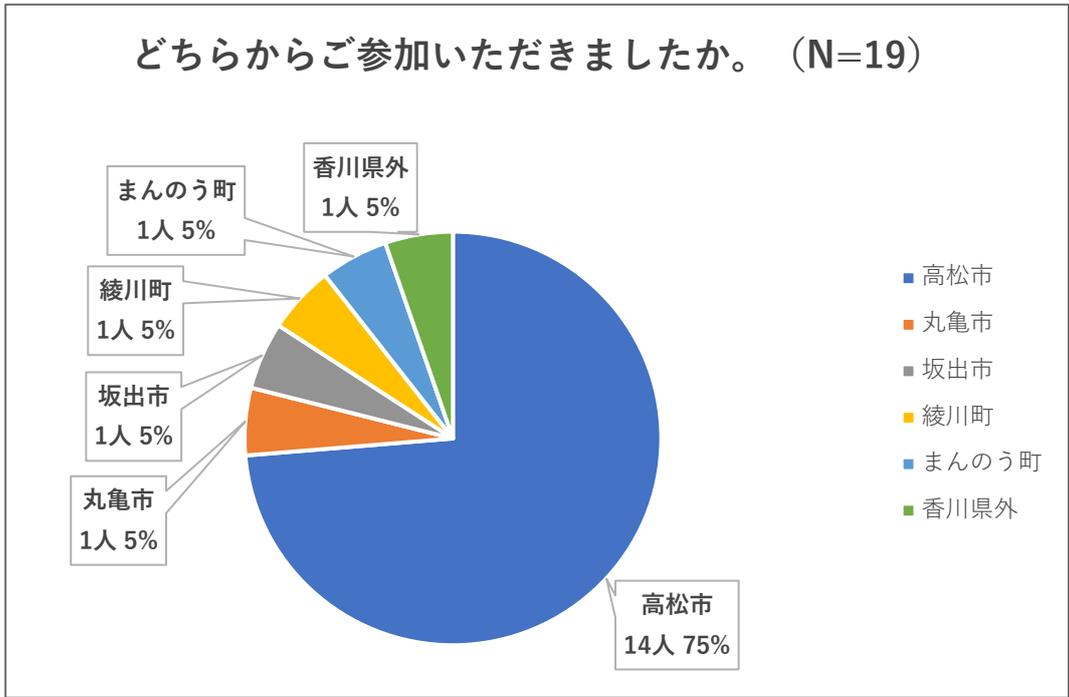
【参加者アンケート集計】 香川の次世代を考える地域円卓会議

日 時 | 2022年11月19日(土) 14:00~16:30 (13:30 受付)

場 所 | ふらっと高松 (高松市仏生山町甲 218-1)

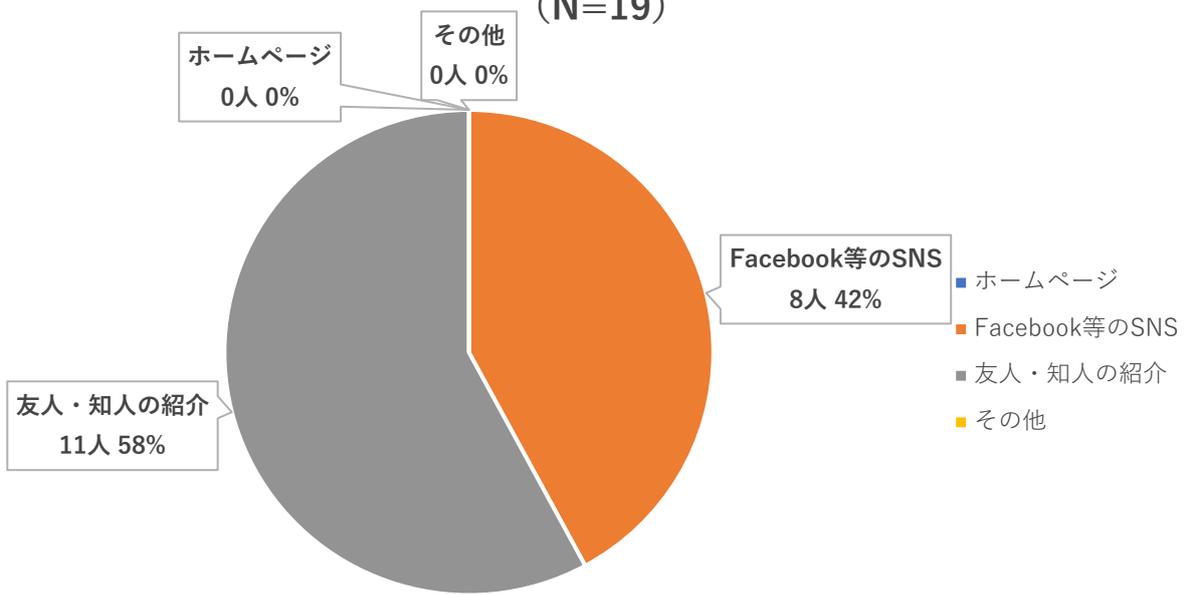
着席者数 | 7名 (論点提供者、司会、記録者含む)

来場者数 | 34名 (アンケート回収19名、回収率56%)

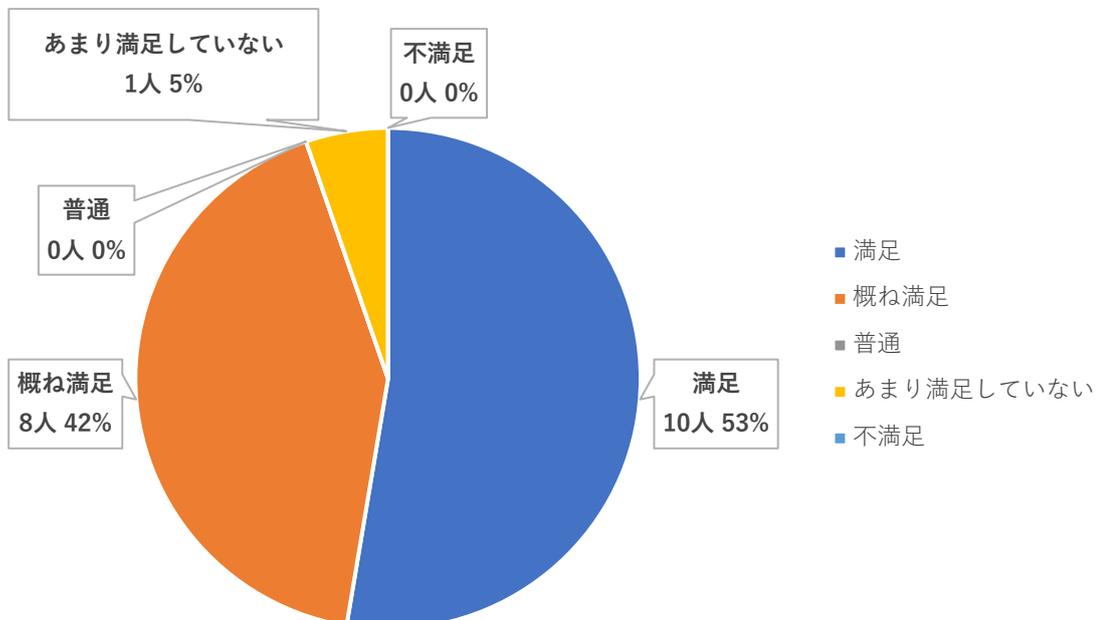


本日の地域円卓会議をどちらでお知りになりましたか。

(N=19)



本日の地域円卓会議に参加しての満足度をお聞かせください。(N=19)



Q. 上記の満足度を選択した理由をお聞かせください。

(満足)

- ・ いろんな方の意見を聞くことができたこと。2時間半が短いと感じさせられました。
- ・ 第一線で活躍されている方々の生々の本音が聞けた事。
- ・ 色々なことを知ることができて、勉強になりました。
- ・ 課題について、人によって様々な視点があることや、結局はリスクを回避してしまう大人に課題があるという視点など、新しい視点に触れることができた
- ・ 会議を経て、自分だけでは分からない新たな気づきを得たから。
- ・ 色々な視点から出てくる課題や、想いが聞けて、自分がこれから活動を進めていく上での種を頂きました。そして、何より皆さんからパワーを貰いました。
- ・ 貴重なご意見が聞けて、大満足です。
- ・ 様々な立場の人の考えにふれることができたこと
- ・ 自分を疑うことができたから
- ・ 新たな視点をいただけたこと

(概ね満足)

- ・ 興味深い話がきけた。
- ・ もう少し、いろんな人の意見を聞きたかったです。
- ・ 会の中でも言ってたけど、じゃあどうするがなかなか出てこないんだよね。これが出てくれば解決だから、こういう会も必要ないって話になるんだけどね。
- ・ 色々な人の話を聞けてすごく勉強になりました。自分が大人になったときに大人の覚悟とか、今回聞いた事を自分なりに考えながら活かしていきたいと思いました。今回色々な話を聞いて、話がちょっと難しくついていけなかったところがあったのが少し残念でした
- ・ 普段から課題として感じていることだけではない、新しい視点からの意見を聞くことができたため。
- ・ もっと参加者同士の意見交換をしたかった
- ・ よく準備されており、一定の効果があったと思われるから

(あまり満足していない)

- ・ 自分も含めた参加者の質

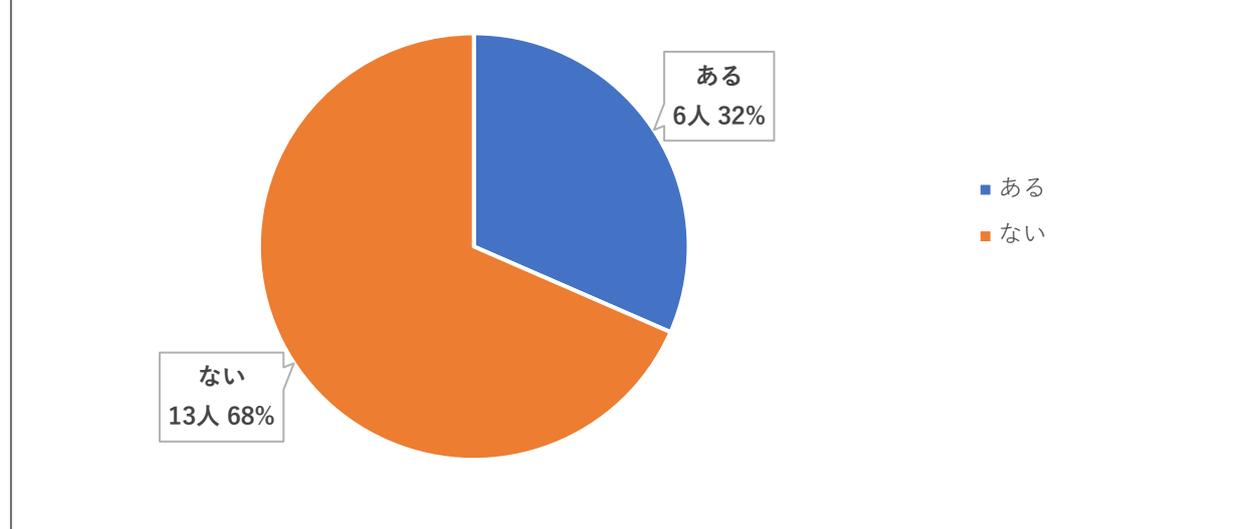
Q. 本日の議論の中で、印象に残ったこと、良いアイデアだと思ったことがあれば お聞かせください。

- ・ 許容・寛容
- ・ 若い世代うんぬんより大前提は大人がリスクをとりまずはやってみる。
- ・ 行政に任せずに、私たちに何ができるか？それを考えながらやっていきながら、地域や学校、大学などと繋がって若い人たちを育てる環境があることが大切
- ・ 子供に対して「寛容」であること、子供に選択の機会を与えること
- ・ 出席者の方々の自己紹介がそれぞれユニークで面白く、印象に残りました。

- ・若者のことを考える時に、その若者がいないという話にはハッとさせられました。また、学校に土曜日行かないのに仕事で土曜日に働けないという話も妙に得心がいきました。
- ・子供達が自分の意見を言っても大丈夫な世の中(教育現場)になってほしい。親も、子供の意見を否定するのではなく、ちゃんと受け止めて肯定してあげてほしい。ひとりひとりがファーストペンギンにならないと日本は変わらない。
- ・やれそうなことからやればいい
- ・近くの人と話したことを、その場でメモして掲示するのが、よかった。と、思います。
- ・寛容、許容っていいよね。ただし、成熟が伴わないと、単純に我儘でもいいって話になるかも。
- ・「大人の覚悟」の話がすごく印象に残っています。世代交代したいのと、高齢者の「役割が欲しい」という思いがぶつかり合って、次に譲りにくい。ということがあることが新たに知れて良かったです
- ・全く違う雰囲気の校区・コミュニティから、異なる業界の人選をすると、現場の声も全く異なり、相手に付度も無く、議論が活性化(白熱?)することが分かりました。
- ・ゲスト 5 名のお話がそれぞれ違う視点からであったため、ゴールのない会議ではあったものの、今日のゴールまでが遠く感じてしまい、途中で自身の頭は整理するのにパニックになりそうだったが、それがとても面白かった。5 名のお話が、みなさんそれぞれ本当に興味深く面白かったです！
- ・アンチ教育委員会からはじまった、それぞれの立場で話をしてくれたこと。
- ・「アンチ」「それを言ったらおしまい。」大人の忖度は保身。自身の知名度やら昇格に注力しとるから本音すら非公式な場（呑み会やら SNS）で吐き出す。大人も苦しんで生きている。そーいう大人を見てるから若者は不信感をいだき、自己を表現することに怯え、諦める方が楽にいきれると学ぶ。色んな人いての多様性やけど、結局のところ多様な中でもカテゴライズしよるんが見え見えやと感じた。若者を集めるより、若者が集まっている場に出向かないと募集して参加してくれるエー子ちゃんが集まったとて生徒会の子らが校長や主任やに顔色うかがってとする会と同じ気がした。私はアウェーでい続ける事に誇りを持ってコレからもこどもらの成長や安全を守ろうとおもってます。
- ・大人の覚悟
- ・当事者となる世代の方の参加は勿論ですが、もっと多くの方々と共有して、深めていけることが何よりも次に少しずつでも繋がる糸口になるように思います。対談することのよさを感じました。

コミュニティ財団という名前は聞いたことがありますか。

(N=19)



Q. 最後に少しでもコミュニティ財団の説明をさせていただきました。率直なご感想を聞かせてください。

(「よく分からない」「興味はある」等でも構いません。)

- ・とても興味あります。
- ・非常に理にかなった考え方であると思います。地域をより良くしていく為に、地域のみんなで協議し実行していく。最近では地方創生を生業にコンサル会社が各地で色々な取り組みをしていますが、持続しないのでは？と思っていました。素人感想です。すいません…
- ・あまりよく分かりませんが、言葉から捉えたら、興味があります。
- ・超面白そうだなと思いました。
- ・地域のプレイヤーの背中を押したり、支援をする上で、お金というものは何よりも重要で、そのハードルが超えられない人たちがたくさんいると思っていました。ただ、行政からお金を引っ張るためにはそれなりの実績が必要で、その実績を作るための資金に関しては本人が持ち出さなくては行けない。と、思い込んでいました。民間から集めて民間が支援する。クラウドファンディングとはまた違う方法で(CF だとそのプロジェクトに共感を呼ばなくてはならず、そこでまた一つ思いとは違う作業が要る)資金面での不安を取り除くことができるなら、それは選択肢の一つとして是非実現すべきものと思いました。微力ながら力になればと思います。
- ・ちゃんとした所に使われるのであれば、寄付したい。
- ・非常によくわかりました。
- ・興味ある
- ・これからはお金も必要。そこがきちんと担保できる仕組みは必要。
- ・もっと、色々な人に知ってほしい
- ・財団設立のためのイベントだったのかな？みたいな感じが少しだけしました。悪い意味ではなく。

- ・わがことさんがコミュニティ財団設立にかかわろう！と思われたのがとてもよくわかりました。でも、疑問点もたくさんあります。
- ・一般市民としては財団自体がなじみのない団体。関節的にとか無意識に関係はしているだろうが、基本的に謎の組織のイメージではないでしょうか。そのためまずは不信感をもたれると思います。誰が利用対象なのか、何をしてくれるのか、そのあたりを明確に前面に出さないと一部の人が一部の人向けに行う仲間組織にしかならないと思う。次回、はじめましての人をどのくらい呼べるかが重要な課題なのかなと思いました。
- ・自分は、ファンドレイジング的な事で言うと、デイリーサポーターやマンスリーサポーターやら支援者を総動員して活動しているわけで、身の丈に合った自立をしているつもりである。財団という頼れる先を見つけ、共に成長できる人を財団側も選んで是非発展してくれたらと思います
- ・その組織で取り組むことで具体的にどんな効果があるか分かりませんが、活動がより活発になっていけばいいと思います
- ・何かチャレンジしたい人の背中をおすことになるのではと、期待感が大きかったです。

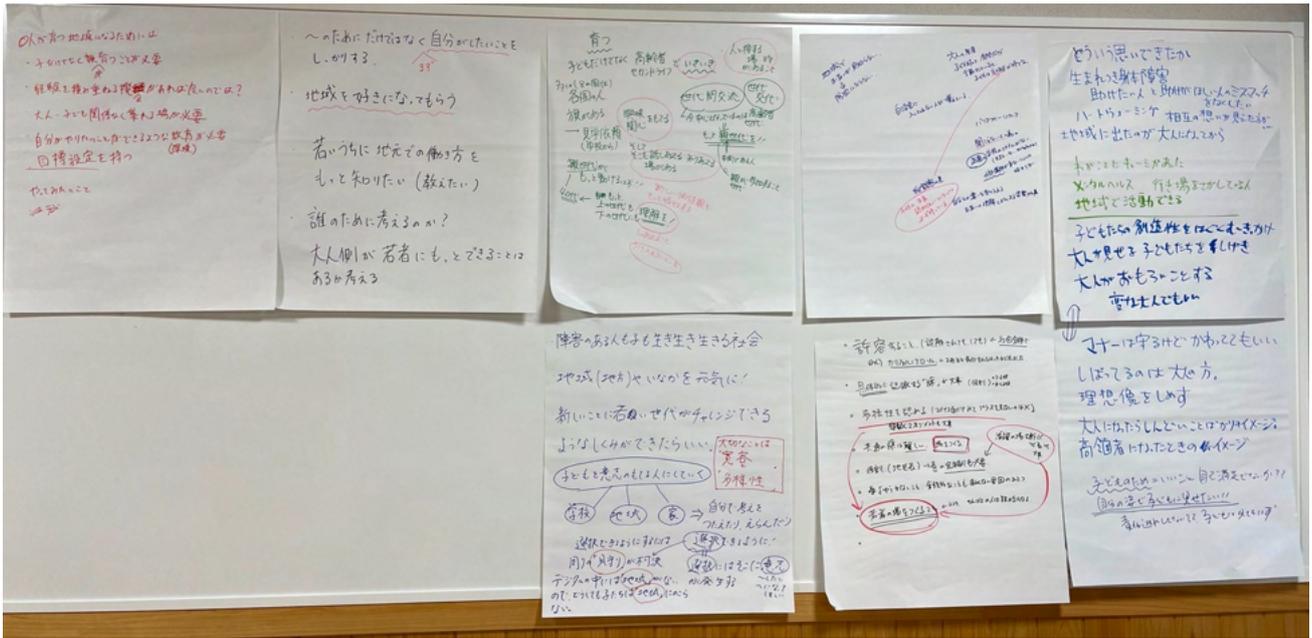
Q. メッセージ

- ・20代以下のパネリストがいなかったのが残念でした。
- ・次回も楽しみにしております。
- ・本日はありがとうございました。生々の意見が聞けて非常に勉強になりました。何より皆様の地域への惜しみない愛を感じました。
- ・本日はありがとうございました。みなさんの意見や考えを知れて、やはり学校だけでは限界があり、地域とつながることは大切だということを認識しました。それを踏まえて、今後の活動に活かしていきたいです。
- ・今日の会議の途中では、もう少し話の展開の仕方が…と思うこともありましたが、全て終わってみると『第1回:問題提起』と考えたら、今日のようななんとなく投げっぱなしブレンバスターが最適解だったのかなと思いました。どうにか頑張って2回、3回も参加して、我が町に多くのものを持ち帰りたいと思います
- ・お会いするのが初めましての方で、しかも凄い方ばかりで緊張しましたが、参加して本当に良かったです。2月も参加したいです。
- ・お疲れさまでした。あっという間の2時半半でした。ゲストのチョイスも面白く、それぞれバラバラの中につながり部分が見つかって、発言を重ねながら議論が深まるのが印象的でした。
- ・これからのリード役に期待しています。
- ・今後も応援しています。
- ・人が育つ地域になるためには、私は、大美さんと知り合えて、今回の円卓会議に参加できて、色々な課題とか、今の現状を色んな人の視点から知れたことがすごく勉強になったし、多様な考えを吸収できた気がしています。でも、クラスの子とかは、中々そんな機会がないと思いました。30人の中の1人が知っていてもそのクラスでは話ができるかもしれないけど、私が話したところで、きちんと伝わる気がしないです。だから、もっとこういう機会を増やしたり、学校でそういう会?みたいなものをしてほしいと思いました。

- ・非常に刺激的な議論の場を用意していただいております。また、その前段の資料も大変勉強になりました。香川県に高德教育機関が少ないのは、高松藩が朝敵で香川県独立が遅れたからだと考えられます。そしてこれは、明治以降の香川県の県民性や、「高松っ子」という表現が無いこと、シビックプライドの曖昧さ、などにもつながる重要な視点なのですが、長くなるのでこの辺で。
- ・お誘いいただきありがとうございました！
- ・応援しています。がんばってください。
- ・どうもありがとう！
- ・我が子に聞くと、植えた種からお菓子が育つ地域ならいいなあという妄想をしていました。頓珍漢な回答でしたが、きっと、参加する中で、子どもなりに思っていることがあったように思います。中学高校生、といった世代もたくさん素敵な意見を持つてると思うので、その子たちが安心して発言できる場になるためにも、まずは私たちが向き合うことも必要だと改めて感じました。そして、私自身、教育の人間だとも感じてます。改めて、そこの垣根、考えていかなくちやと、思いました。登壇者の思いが、私自身いい刺激となりました。ありがとうございました

【当日の会場の様子】





【来場者の SNS での発信の様子】

令和4年11月20日(日)
 昨日(11/19)、NPO法人 #わがごと
 主催の「地域円卓会議」という集まりに参加しました。

日頃からお世話になっている方々が多く名を連ねていたので、ただ会いに行こうと。どうい場なのかあまり深く考えずに行ってみたら、なかなかの熱い熱い会でした。しかも単発ではなく、今後も続いていく予定。新たな出会いもあり、とても有意義な場でした！

議論提供
 まちづくりは人づくり。私たちが未来に責任を持って取り組むことは何か、人が育つ地域になるには、何が必要なのか。
 通学希望者の多くは、高校を卒業後、海外へ進路に就いている。一方で、**産地**に帰ってきたい。産地が育つ学生にもある。
 こうした機動的な状況を踏まえて、これからの産地に産地が育つ環境をどう作っていく必要があるか？

もう先週のお話。
 色々な用事を済ませてから、駆け付けました。
 行った時には既に熱い雰囲気の間。
 「地域づくり」もですが
 改めて自分の価値感や思考についても振り返る機会になりました。
 子ども共に参加していたので、我が子に聞いてみると魅力ある地域...
 「んー、種をまいたらお菓子が育つ」...と。
 そりゃ、魅力的な...
 とは言いつつ、ゲームしながらでも色々と子どもなりに考えていた様子。
 周りの方々に声をかけてもらえたのも嬉しかったようで「〇〇さん、いたね」とも。
 こうやって、子どもとも一緒に、話題について話す、というのも面白いものだなと感じた瞬間でもありました。

最近、自分は教育分野の人間なんだらうなと感じることが多い。
 教育への壁も言われることも多い。
 その中で、自分が何ができるのか、その思いや声を、このような場に参加することでエネルギーにできるなあと痛感しており色々な人に背中を押してもらっているように感じます。
 1時間未満しかいなかったけど多職種・多くの立場との対話のもつ強みとそのような場があることのよさを感じました。

一朝一夕にはいなくても、日々、汗かいて地味に努力するのがプレイヤーだと思われている。みんながプレイヤーになる必要はない。なれない。プレイヤーを追随し、支えるのが大事。
 いやいや、本当のプレイヤーは、私たち一人一人。自分の子に地域の人と交わらせ、たくさん経験をさせて、広い見識や価値観を与える。ゴリゴリの自分よりな大人にならないように。

Npo法人わがごとさん主催【第一回香川の次世代を考える地域円卓会議】に参加しました。
 第一線で活躍している方々の、本音トークは勉強になりました。U29 考察から、大人の責任、覚悟を持ったトライと容認の重要性に発展し共感。
 来年度の地域活性化の未来図も聞け楽しさが増えました。

添付を表示

【着席者の SNS での発信の様子】

英 誠一朗
11月21日 · 〇

久しぶりに真面目な話をしたなあ〜
世代交代は覚悟なんだなあ〜と納得。

地域や会社とかでも同じ。私も業界団体の会合等も行くと同僚がいて楽しいし、たまには出張したいしとかで、なかなかその立場を譲れないものなんだよね。地域でもそういうあののかも。

それなりにシゴトが充実しているので地域活動で承認欲求を満たそうとしないけど、人によっては地域活動でその欲求を満たそうとしている人もいるのかも。地域の各種団体の長なんかも私が小学生の時と変わってなくてビックリするときがある。

最近では、そもそも地域って何？と思うときが多い。ICT革命で時間とか空間とかの概念も変わってきていると思う。私自身は高松に住んでいて不便だったり、都会と比べて卑屈になったりしたことはない。広い地球で縁あってこの高松という座標で住んでいるだけ。地域という話題でだけで朝まで呑めそう。

任す覚悟、譲る覚悟、色々な覚悟が必要だと感じた週末の午後でした。

河田 祥司さんはふらっと仏生山
高松市仏生山交流センターにいます。
2022/11/20 · 〇

「アンチ教育委員会です。」
冒頭いきなり言われました。
刺激的な告白に、いつもと違う方向に脳がグルグル。
休日に、一市民としてふらっと参加していても、どうしても所属の看板がつきまとうもの。
2時間半、その看板を付け替えられたいいなと思いつつながら、
様々な立場の人と語り合う素敵な機会となりました。

次世代の若者が育つ地域とは？
登壇者の話だけでなく、参加している皆さんのワークショップもあり、「寛容性」「多様性」「シビックプライド」「フォローアップ」「選択できる」「意思(意志)」具体的なエピソードとともに、大切なキーワードがたくさん出てきました。

「世代交代」という言葉の捉えが自分の中で変わってきていることにも気づかされました。
気持ちはずっと若者ですが、気が付けば年寄り扱いされる側。
でも、最近思うのは「年齢でくっていいの？」ということ。
冒頭の教育委員会にも、過去と現在、県市町違う上に、様々な人がいて、ひとくくりにはできません。
若いから年取っているからいいとか悪いとかではなく、基準は「学び続けているかどうか」ではないのかも・・・。

いやいや、そうはいつでも若者がこれからの社会をつくるのだからと言われそうですが、アメリカのカリフォルニア大学とドイツのマックス・プランク研究所が調査した結果では、日本で平成19年(2007年)に生まれた子どもの寿命中位数107歳と推測しています。そう考えたら、私もまだまだ若者であり、これから社会を支えていく年齢とも言えます。

私としては、年齢や立場で線を引くのではなく、今日のような場で自分を振り返り、ポジティブな未来をみんなで見つけていくことを大切にしたいなと思いました。

最後に、一番汗をかいたであろう主催者の**大美光代**さんが、3回目までの日程を紹介。脳の回転がいつもと違う方向になる地域円卓会議が、これからも広がってほしいなと思えるクロージングでした。
主催者の皆様、企画から準備等本当にありがとうございました。また、ご一緒することができた登壇者の**岡下健一**さん、**英誠一朗**さん、**田中博子**さん、**真鍋有紀子**さんたくさんのヒントをありがとうございました。これら猛者をコーディネートしてくださった**湯川致光**さん本当に疲れさまでした(笑)。

ps
今、ドラマ「silent」を観ているので、手話をしてくださった方々の動きも気になりました。自分の話を手話で伝えていただける環境にも感謝。-場所:
ふらっと仏生山 高松市仏生山交流センター

真鍋 有紀子
2022/11/19 · 〇

本日はこちらへ。

【キャンセル待ち受付中】香川の次世代を考える地域円卓会議でした。
いろいろな立場や視点のお話が聞けて面白かったです！

マナベ的には、なによりも若者の勇気をくじけさせるのは、大人たちの「何かをやらうと頑張る人に対する妬み・嫉み・陰口を口にする姿」や「無関心」だと思うので、自分がプレイヤーだろうがサポーターだろうがそんなことはどちらでも良く、頑張る人や手をあげる人へのリスペクトや温かい拍手をできる大人を増やすことが、将来、地域で育つ若者を増やす一番の方法のように思う。

皆さまありがとうございました 🍷

真鍋 有紀子
2022/11/20 · 〇

ちなみに、昨日わたしは企業の立場からの参加だったので、「若い世代が香川で動く」とことについて自己紹介プレゼンしました。

先般、高校で総合的探求の授業をさせてもらったとき、学生は「自分の価値観や大義で動く」気持ちがあると感じたこと。

同様に、「金儲けのためだけに事業をやってる」企業は、ほとんどないこと。(なので、地元で若者が働きたい未来は、必ず近くにある)

一方で、採用がビジネス化している今、県外に行った大学生の目に触れる主要な機会(企業説明会、リクルートサイト)は「お金がかかる(数十万から数百万)」ものとなっていて、多くの地元企業にとって負担が大きいこと。(地元学生対象の場合は授業一コマもらったリインターンという方法があるけど)

そしてまた、「何をしたいかわからない」若者がリクルートサイトなどで仕事を探そうとすると、「休日年120日以上」「残業時間月20時間以下」「30代で年収60万以上」といった検索ワードでフィルターをかけられ、こちらなかなか不利であること、などを話しました。

リクルートサイトの力を借りるのは、他に学生に届く有効な発信手段を持たないからで、そんなものに頼らずとも選ばれるよう、会社としてのブランド力、知名度を上げる努力はもちろんな企業努力ではあるけれど...

だからといって今の採用ビジネスが地元企業にとって厳しくないとは決まっていえない。

...という現状を知ってもらうことで、なにかがどこかで生まれればいいなと考えています。